

第5学年1組 国語科学習指導案

1 単元 すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう「大造じいさんとガン」

(棕 鳩十作)

2 本単元の指導の立場

(1) 児童の実態

本学級の子どもたちは、第4学年までに場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や心情の変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことを学習してきた。また、第5学年「名前つけてよ」の学習において、心情が表れている表現に着目し、登場人物どうしの関わりがどのような出来事を通して、どのように変わって行ったのかを読み、感想を伝え合う学習をしてきている。そこで、読む文章が多様になり、読み手の視点だけでなく、書き手の視点からも読書を行うことができるようになるこの期に本単元を取り上げる。そして、登場人物や場所の様子が目に見え、耳に聞こえてくるような表現や、人物の心情を想像できる情景描写に着目して読み、作品の魅力を伝え合うことができるようにしたい。このことは、豊かな感性や情操を育む「読書センター」としてだけではなく、「学習・情報センター」として学校図書館を活用していこうとする子どもを育てるとともに、自分の考えを主体的に表現する子どもを育成する上からも意義深い。

(2) 教材の価値

本単元は、登場人物や場所の様子が目に見え、耳に聞こえてくるような表現や、人物の心情を想像できる情景描写に着目して読み、その作品の魅力を伝え合うことができるようにしていくことをねらいとしている。本教材文は、大造じいさんがガンの頭領である残雪との関わりによって、価値観や生き方を見つめ直す作品である。また、色彩語や比喻などの表現技法が用いられた情景描写が特徴的であり、情景描写を通して登場人物の心情が読み取れることをとらえさせたり、その表現の素晴らしさに気づかせたりするのに適した教材である。本単元は、第6学年「やまなし」において、題名、構成、表現などから作者の意図を推測し、作品に込められた筆者の思いについて自分の考えをまとめる学習へと発展していく。

(3) 指導の構え

様々な作品を比べて読み多様な表現方法や叙述に着目しながら読む活動は、登場人物の相互の関係や心情をとらえたり、読むことの楽しさを実感したりするために適した活動であると考えている。

本単元の指導にあたっては、ポップを作成して作品の魅力を伝えることを単元を貫く言語活動にしているためまず、「つかむ」段階で、作品の魅力を書きまとめたポップのモデルを提示し、学習への意欲を高める。次に、「つくる」段階で、「大造じいさんとガン」を読み、あらすじ、大造じいさんや残雪の人物像、すぐれた表現、大造じいさんの心情の変化を捉え、場面ごとにすぐれた表現をリハーサルポップにまとめる。そして、「みがく」段階で、これまで書きまとめたリハーサルポップを活用して、「大造じいさんとガン」の作品の魅力を伝えるポップを書く。最後に、「生かす」段階で、自分の選んだ本のすぐれた表現に着目し、作品の魅力を伝えるポップを作成する。

特に、単元を通して選書して1冊の本を読み続けたり、「生かす」段階で、読み続けた本のポップを作成し、学級や学校図書館等で紹介し合う活動をしたりして、学校図書館の活用を図る。

3 目標

- (1) 教師が提示した本のポップに興味をもち、自分の選んだ本のすぐれた表現をポップに書き、作品の魅力を伝え合おうとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 残雪の行動に対する大造じいさんの言葉や行動、情景描写から、大造じいさんの残雪を捕りたい心情の高まりや、残雪に対する心情の変化を読み取ることができる表現の素晴らしさを理解して、自分の選んだ本のすぐれた表現を読み取ることができる。【読むこと】
- (3) 「東の空が真っ赤に燃えて」「青くすんだ空」などの情景描写などを通して、登場人物の心情や心情の高まりが表現されることがあることを理解することができる。

【言語についての知識・理解】

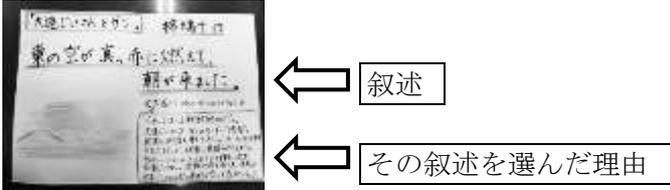
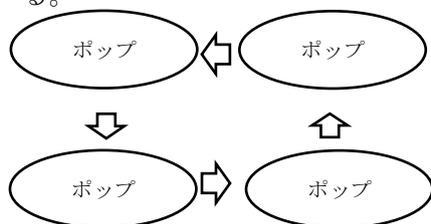
5 本時の主眼

- 心情を表す表現、動きに関する表現、情景をえがいた表現などのすぐれた表現からポップのよさを見つけることができる。

6 準備

紹介する本、紹介する本のポップ、キーワードの短冊、大造じいさんとガンのポップ、メモカード

7 本時の展開 (45分)

段階	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	<p>1 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ポップを見るときに観点について、大造じいさんで作成したポップを通して確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観点を分かりやすく捉えることができるように、短冊に書いたキーワードを黒板に提示する。 ○ 優れた表現に着目させるために、絵やデザインは補助的な役割であることを伝える。
つくる	<p>ポップを見合い、友達の作品のよさを伝え合おう。</p> <p>2 友達のポップを見て、気付いたことをメモカードに書く。</p> <p>(1) まずは、メモをとらずにクラス全員のポップを見て回る。</p> <p>(2) 4つのグループに分かれて、時間を区切って友だちの作品を見てメモカードに気付いたことを書きまとめる。</p> <div data-bbox="231 1164 933 1265">  <p>この先どんな展開になるのかな。今度読んでみよう。</p> </div> <div data-bbox="231 1288 933 1411">  <p>理由を読んで、話の内容が気になってきたぞ。読んでみたいな。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポップに書かれた本を手にとって見たり読んだりすることが出来るように、ポップの側に本を置いておく。 ○ ポップを見るときに偏りや混雑を防ぐために、時間を区切ってグループごとに移動するようにする。 
みかく	<p>カードをもとに、自分の気付きや感想を発表して伝える。</p> <p>(1) 聞き手が分かりやすいように、友だちの作品を手にとって発表する。</p> <p>(2) 友だちの発表を聞いて、参考になったことや学んだことを付け加える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明確に伝えたり、聞いたりすることができるように、発表の仕方を提示する。
生かす	<p>4 考えが深まったり学んだりしたことを「今日の学習で」にまとめる。</p> <div data-bbox="231 1803 933 2004"> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップを見て、本に興味をもちました。今度読んでみたいと思います。 ・本の中には、読む人を引きつけるための文章がたくさんあることが分かりました。私も、これからは文の表現を楽しんで読みたいと思います。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えの広がりや分かりやすくなるために、付加する際は青鉛筆で書かせるようにする。 ○ これからの読書活動に繋げるために、どのように自分の生活と関連させて読書への取り組み方を書かせる。